



3月・4月の管理ポイント

春を迎え気温が上がると、芝生は生育期を迎えます。
更新作業を行うゴルフ場も多いのではないのでしょうか？
コンディションの良いグリーンを作るため、土壌環境を整えていきましょう。

サッチの除去
土壌環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。定期散布で土壌の透水性や通気性を改善しましょう。土壌微生物のが活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5ℓ/m²

根の生育しやすい
土壌環境を整えましょう

レボ

冬季のグリーンは非常に乾燥しやすくドライスポット発生の原因となります。気温が低い間はそれほど目立ちませんが、気温が上がると生育期を迎えると生育ムラや肥料ムラを引き起こします。界面活性剤を定期処理することで、土壌撥水性を改善し根の生育しやすい土壌環境を整えることができます。レボは表層土壌の水分を低めに保ち、気相もしっかり確保します。

土壌水分を高めに保ちたい場合はプライマーセレクト、発生したドライスポットの治療にはアクアダクトをご使用下さい。

液肥などとのタンクミックスにはグリーンシナジーがおすすめです。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回

スポット処理に最適

ハイドレーターG

乾燥が気になる箇所に手軽に処理できる、粒剤タイプの界面活性剤資材です。ドライスポットの予防と治療にご使用ください。降雨前に散布し、後散水の手間を省く省力散布がおすすめです。1mm程度の粒剤なので散布しやすく、5mm程度の散水で溶けます。張芝した箇所の乾燥対策にも効果的です。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 20g/m²/週 予防10g/m²/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m²/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月

光合成だけでは足りない
養分の補給に

グリーンメカ

生育期を迎え芝生の活動が活発になると、大量のエネルギーが必要になります。しかし気温が低いと光合成スピードが遅く、必要量のエネルギーを作り出すことができません。

貯蔵養分を使い込む前に、糖・アミノ酸・ミネラルたっぷりのグリーンメカで足りないエネルギーを補給しましょう。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²

病害予防に

グリンオキシラン水和剤

グリンオキシランは有機銅とキャブタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業後の保護殺菌にお勧めです。

使用量：ベントグラス_希釈倍率300-500倍 1-2ℓ散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2ℓ散布/m²

池の水をきれいなブルーに

ワラーブルーL

池がきれいなブルーになりコースの景観が良くなります。ワラーブルーLに含まれる2種類の色素で、水生植物(アオコなど)の光合成に必要な光(430nm、630nm)を遮り、増殖を抑えます。増殖が始まる前からの使用が効果的です。安全性の高い食用色素を使用しているため、着色した池の水を芝生への散水や薬剤散布にも利用できます。

使用量：500ml/水500トン

池の水質改善に

セラクリーン

セラクリーンは、池に散布することで水中の悪臭原因物質を吸着し拡散を防ぎます。またカルシウム等のミネラル分をゆっくりと放出して水質の悪化(酸性化)を防ぐことで、池の水質浄化に優れた効果を発揮します。即効性の粉タイプと遅効性の顆粒タイプがあります。気温が低く微生物やアオコなどの活性が低い時期から、池の水質改善を行いましょう。池の掃除後の使用も効果的です。

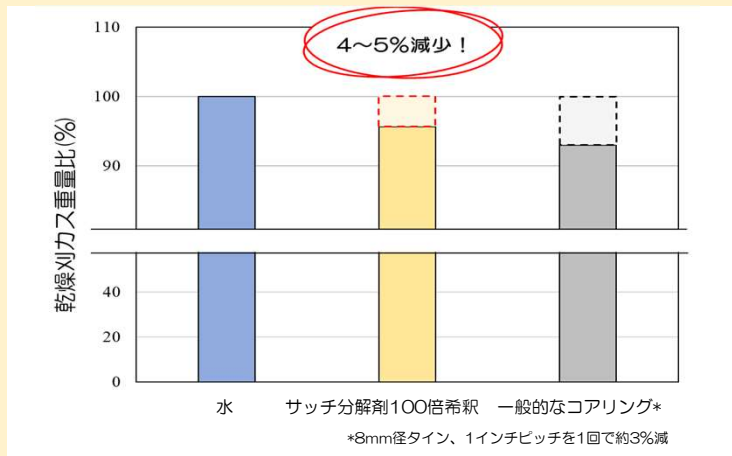
使用量：5~10袋(100~200kg)/1,000m² 5~10袋(100~200kg)/水1,000トン

サッチ分解剤は、セルロース分解酵素(セルラーゼ)や有用微生物を芝生に散布することで土壌中のサッチを分解させる資材です。土壌の透水性や通気性を改善し面を荒らすこともないため、更新作業にプラスして散布することで土壌環境を効率的に改善することができます。そこで今回は、サッチ分解剤(酵素剤)の効果とおすすめの使用スケジュールを紹介します。

刈カス分解効果

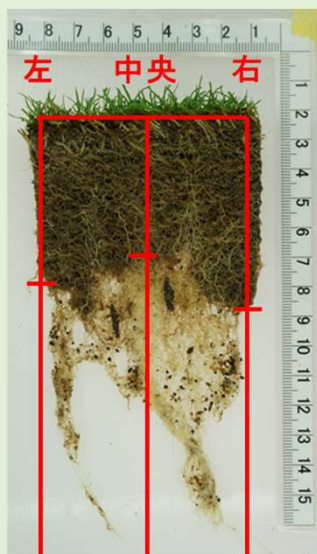
サッチ分解剤希釈液に浸した場合、刈カスの細胞壁成分(セルロース)が分解され、刈カスの重量は水に浸漬したものに比べ約4~5%減少しました(下図)。

サッチ除去に最も効果的であるコアリング作業(一般に3~9%減少)と近い効果を示しました！

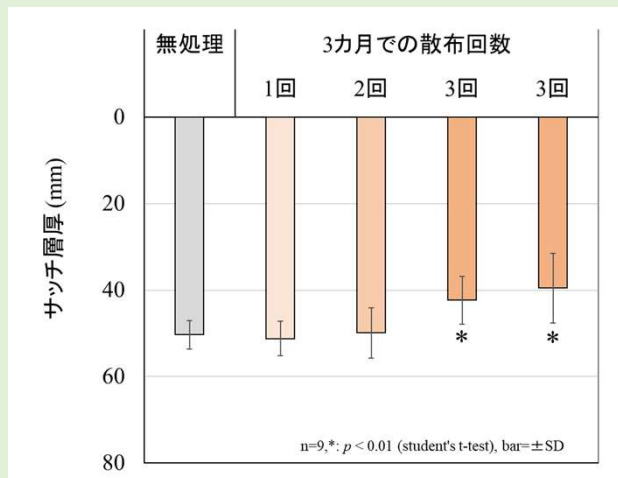


サッチ層厚調査

3ヶ月継続して散布することで、サッチ層の減少が確認されました！



抜き取ったサンプルを丁寧に洗浄し、左図のようにサッチ層厚を三点測り、その平均をサッチ層厚とした



神奈川県Aゴルフ場パッティンググリーンにて2021年5~7月まで定期散布とサッチ層調査を実施
散布薬剤：サッチ分解剤(酵素剤) 散布1回あたり0.2ml/m²

おすすめの散布スケジュール：グリーンの場合

降水量が多く、土壌中が酸欠状態になりやすい梅雨時期までに複数回散布することで、土壌環境を改善することができます。



夏までに3回以上散布してサッチを減らし、夏場の透水性・通気性を向上させましょう！！